

セ ボ ネ

セタガヤ

ボランティア

ネットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

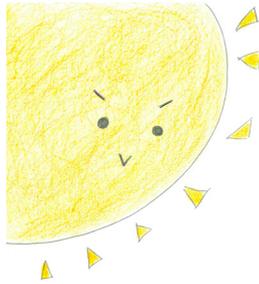
世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2022.8 No.220

今月のピックアップ

特集●

「やってみたい」をはぐくむ「ゆめパのじかん」
まちの市民力！ ●学生団体 ULYSSES (ユリシス)
せたがや災害ボランティアセンターレポート
～松原高等学校定時制課程奉仕体験活動～



イラストレーション●しおりん

世田谷生まれ、世田谷育ちです。今年の春に大学を卒業して、今は自由気ままに演劇などを行っています。コロナが無くなったら、北海道に行ってみたいです。

●わたしの世田谷

最近、新しく綺麗な施設が増えたなど感じます。嬉しい気持ちと、寂しい気持ちが半々くらいです。どんな街になっていくのが楽しみです。

「やってみたい」をはぐくむ、「ゆめパのじかん」

世田谷から多摩川を越えると川崎市。川崎の高津区に「川崎市子ども夢パーク」があります。工場跡地を利用した約1万㎡の広い敷地の中には、子ども、自主保育の親たち、いろんな人たちが「なんでもすきなことができる」スペースがあります。プレーパークのエリア、ごろごろ寝っころがれる場所、音楽スタジオも、木工のスペースも。そして、学校にっていない子どもたちのフリースペース「えん」も。「やってみたい」はそのまま「やってみる」に！ そんな「居場所」が映画になり、公開中です。



写真右：© ガーラフィルム、ノンデライコ

「子どもの権利」としての「居場所」

映画はのっけから、土の中の小さな穴を出たり入ったりする蟻たちをずっと飽きずに目でおっかけているリクトの姿を映し出します。そして、夢パーク（通称ゆめパ）でのさまざまな日常の光景、ウオータースライダーを滑り降りて、ドボーンと水の中に落っこちる子どもや大人、どこが顔だかわからないような泥まみれの子ども、膝を擦りむいて泣いている子どもに、絆創膏を貼って「いのちに関わらない怪我は経験になるから」と明るく笑うおかあさん。ああ、いいなあ、と観ている方もホッとします。

夢パークが実現した背景には、「子どもの権利条約」があります。1989年に国連で採択され、日本もそれを94年に批准しました。それに基づいて、川崎では98年から2年間、200回以上の会議を重ねて、2000年に「川崎市子

どもの権利に関する条例」を制定しました。条例の27条に「子どもの居場所」についての条文が入り、「居場所」を具体的な形にしようとして実現したのが、「川崎市子ども夢パーク」でした。

映画は、「居場所ってこんな形なんだ」ということを、その主人公である子どもたち、子どもたちをそっと見守りながら支える大人たちを見事に映し出しています。

「やってみたい」全開の「ゆめ横丁」

子どもの「やってみたい」は、多岐にわたります。ゆめパには本格的な木工のスペースがあります。木工ボランティアとして通ってくる福峯さんの指導のもと、食いつくように木工に「ハマった」サワ。箸をつくり、スツールにも挑みます。「こどもゆめ横丁」で廃材を使いお店づくりをするサワの姿は、大工の棟梁のよう。宮大

工になりたい、という夢を、とまどいつつ語ります。ゆめパ内の植物に詳しいヒナタ、鳥が大好きなミドリ……それぞれ、自分の「好き」に導かれているようです

年に一度の「こども全開！」の「こどもゆめ横丁」では、子どもたちが、「やってみよう」お店や、「作ってみたい」手作り品や食べ物を作って売る、という店がひしめく、ゆめパ内の横丁です。この



映画のシーンより。子どもが自由に火を使える夢パーク
写真：© ガーラフィルム、ノンデライコ

年の販売価格の上限は150円。売上の10%は横丁税として納めます。集まった税をどういうふうに使うかも、参加者みんなで考えます。横丁は、子どもたちが「好き」を実行するところであり、経済の仕組みも学ぶところであり、ここにはみんなでちゃんと意見を言い合う「民主主義」が生きています。大人こそ学ぶところがたくさんあります。

「居場所」の映画をつくりたい！

7月9日は東京での公開初日。ポレポレ東中野で上映後に行われた重江良樹監督と夢パークを運営する認定NPO法人フリースペースたまりば理事長の西野博之さんとのトークに耳を傾け、インタビューをさせていただきました。

西野さんは、子どもの権利条例調査委員会の世話人として、たくさんの方の会議に参加し、制定に携わってきた張本人の一人。映画の

中では、まさにゆめパの「夢好き案内人」です。西野さんの「居場所」づくりの歴史は1991年に、多摩川のそばに「フリースペースたまりば」を作ったことにさかのぼります。生きづらさを抱えた若者たち、学校に行けない子どもたちと地域で育ちあう場を続けてきたことが、ゆめパの実現につながりました。

重江監督は、2016年にドキュメンタリー映画「さとにきたらええやん」を世に出しました。「さと」は『日雇い労働者の街』と呼ばれる大阪市西成区釜ヶ崎で40年以上にわたり活動を続ける「こどもの里」。大変な問題を抱えた子どもを大人たちが支え、見守っているところです。

「自分が小さい時にこんな居場所はなかった。子どもに関する悲しいニュースはなくなることがない」と深く感じた重江さんは、「さと」を観た人たちの「私にはこんな場所も、こんな大人もいなかった

た」という声に背中を押され、次回作も「子どもの居場所」と決めました。そして2019年から、夜行バスで大阪から川崎に通い、撮影を始めたのです。

「わたしがわたしのようになんか生きる」

上映後のトークで、サワが映画の中で作っていたあのスツールに座った重江さん、「やつとはじまりましたね」と感慨深げ。「3年間支えられて、子どもの映画を作れてよかった」と。「さ」とから「ゆ



映画のシーンより。子どもと一緒に大人も泥んこ遊び
夢パークで撮影。写真：©カーラフィルム、ノンテラ

めパ」への長い道のり、重江さんと西野さんの口から出た言葉は、「テイスト、ちがうねえ。『さ』は、ハラハラ、ドキドキの連続の中で、子どもや保護者を見守るスタッフの姿を描いていたけど『ゆめパ』は静かな映画になっているね」と異口同音に。

「子どもは悩みながら育っていく、そうして大人になっていく。静かな時間の中で悩み、成長していくんだという大事なものを見せてもらいました」と西野さん。

「居場所の映画を作ることができてよかった」という監督の言葉を受けて、西野さんが語ります。「子どもの『やってみよう』がたたくさんあるのが居場所の意味。ダメダメ、何でも禁止、という世の中にあって、子どもを邪魔者にせず、生きたいように生きさせるところ。子どもは大人からの評価を気にし、大人の目を忖度する中で、挑戦させてもらえません。蟻ばかりみているリクトに『蟻なんてみ

てる場合じゃないでしょう、もつとやる必要があるでしょ』というのが大人。」

「『さ』は大変なことをさせられてきた子どもたちが、それを吹き飛ばして生きていく姿を描いたけれど、今度の映画では、遊んで悩んで考えて、自分の『じかん』を大切にしながら自ら育っていくという、一人ひとりの人生の一部を撮らせてもらいました。」

ゆめパで時間を取り戻す

「ゆめパ」を貫くモチーフは「時間」と言えそうです。だからこそ「ゆめパのじかん」。「時間泥棒に奪われた時間を取り戻すためにゆめパの時間がある。将来のために今を犠牲にする、老後のことを考えて、とかいうのはササりますよね。『たまりば』の30周年の時に作った、僕が今着ているTシャツには、Take time to make your soul happy. (君のたましいが幸せ

であるように時間を取ってね」と書いてあります。子どもがゆつくりと成長していく時間。まさにこの映画だよね。」

重江さんが「時間の中から学びを得る。マツチを擦って火起こしをしたり、鉋^{かん}やのこぎりを使って木工をやったり……。普通は「危ないからやめなさい」というところですけど」と言えば、「この年齢の子はやっちゃいけない、とか大人がみんな決めていきます。失敗させまいという大人の目線が社会にあふれているけれど、ゆめパで



西野博之さん(左)と重江良樹監督(右)
写真: 映画『ゆめパのじかん』facebook ページより

は失敗から学ぶんです」と西野さん。「大人が子どもに成功体験を求めすぎる社会はヤバイ。大人は先回りしない方がいいです。」

この映画を観て、「悩むってかっこいいな、と思いました」という感想があつたそうです。「やってみたい」ことばかりやっているような一人ひとりのこどもが実によく考えている、ということも言葉の端々に。「虫イノチ!」のリクトは、「将来の夢は?」と訊かれて、「動物関係もいろいろ、なんか仕事でやると……って感じだよね」。仕事にしてみましたら、何かが失われる、と感じているのでしょうか。「投資家かなあ」と真面目に答えるリクトに大笑いしながらも、「すごい、この子!」と感動します。

「だいたいよつぶ!」のタネをまく

「こんな『居場所』がもっともつと増えればいい。居場所に届かな

い子どもたち、居場所を必要とする子どもたちに、こういう場が届くためにも、映画を観て感じたことを皆さんがいる場で共有してください」と重江さんは映画にこめた願いを語り、「生きていてあげよう!」というメッセージと共に、「だいたいよつぶ」のタネを全国に蒔きたい」と話します。

「くう、ねる、だす」(ご飯は食べられてるか、寝られているか、これでいいのに、大人はもっともつとと急ぎ立てる。「あんたがいてくれて幸せだよ」とゆめパから発信するタネをまく西野さんは「花咲かじいさん」さながら。観た人たちが、どんなに小さな場所をも、「やってみたい」を大切にする場に変えようとしていけば、子どもも大人もきつと生きやすい世の中になるでしょう。

監督の「やってみたい」も、形になりましたね!

(文責/編集委員 星野 弥生)

地元の世田谷をきれいにしたい！
学生団体
ULYSSES (ユリシス)



まちの 市民力!!

取材・高居 真夕子

●
街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



『学生団体 ULYSSES (ユリシス)』は、現在高校3年生の白井さんと横嶋さんが、今年1月に立ち上げたばかりの環境問題に取り組む団体です。彼女たちは、近所同士で幼馴染の間柄。お互いの関心について話すうちに「環境問題」が共通していることに気付きました。

彼女たちが高校に入学したのは2020年4月。新型コロナウイルスが蔓延し、学校生活に大きな制限が加えられ始めた頃でした。そんな状況下でも「ごみ拾い」ならのできるのではないかと考え、駒沢公園や渋谷や表参道で実施している他団体の活動に参加。1年近く参加する中で、せっかくなら

「地元の世界田谷区をきれいにしたい！」と思うようになり、設立にいたりました。

取材日は、自由が丘での活動に参加しました。参加者に名札が渡され、みんなで手順を確認すると、すぐに活動がはじまります。参加者は、親子連れや中高生、社会人の方など様々。しかし、みんなでごみを拾うなかで「缶が多いね。」「草むらによく隠れているよ!」などゆるやかに会話が生まれます。

ごみ拾いを通して、人とのつながりを感じる温かい時間でもありました。その心地よい時間を高校生が作ってくれていることに驚きます。少しずつ活動が根付いてき

てリピーターの方もいらつしやる
とのこと。

新型コロナウイルスの感染拡大は、当たり前前だった学校生活に大きな影響を与えました。彼女たちも、このままでは高校時代の思い出作りや何か目標を持つことはできないのではないかと不安になったそうです。一方で、ULYSSESを設立した今、「コロナがなかったら学校生活は部活や委員会
で忙しいからこの活動ができていなかったかも」といいます。

大学受験を控える二人。白井さんは絶滅危惧種の生態系と環境保全、横嶋さんは企業や労働法、ファッションに関心を持ち、日々勉強にも励んでいます。受験が落ち着くまでは月に1回程度、勉強の息抜き程度に続けるそうです。大学に進学しても、ULYSSESの活動は続けていく予定です。これから世田谷で、お二人の成長と一緒に活動がどのように育っていくのか、とても楽しみです。

せたがや災害ボランティアセンターレポート

松原高等学校校定時制課程 奉仕体験活動

7月13日に都立松原高等学校で奉仕体験活動の授業を行いました。毎年ボランティアについての体験授業を実施しています。今回は具体的な事例から避難所運営の理解を深めることを目的に「避難所運営ゲーム（HUG）」を体験しました。

最初に、ボランティアについて大事な4つのポイント「自主性、無償性、社会性、先駆性」とHUG



みんなで知恵を出しあっている様子
写真提供=東京都立松原高等学校 定時制



混乱した避難所を伝えている
写真提供=東京都立松原高等学校 定時制

Gをするための基礎知識として、避難所がどういうところなのかという話をしました。

先生も交えた3つのグループにわかれて、実際にHUGを開始。今回は、帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設に指定されている松原高校が舞台です。避難所に入らなかった方たちを受け入れるという設定にしましたが、病気を抱える人、帰宅困難者、引きこもりの子ども、ペットを連れた人たちと様々な人がやってきます。面白い

アイディアや奇抜なアイディアも出つつ、きちんと理由を考えながら、避難者をスペースに割り振っていくなど、避難所運営の経験がない高校生が自分で判断し、取り組む様子に頼もしさを感じました。

ゲームの振り返りの中で、災害時に何ができるかわからないけれど、何かできることをやっていきたいという言葉もありました。災害時に力を発揮してくれるだろう若い世代に『伝える』ことの大切さを感じました。



意見をまとめるのは難しい……
写真提供=東京都立松原高等学校 定時制

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわか

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合つことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組みボランティアを探して紹介しています。現在は、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの学

らないという方は、電話でご相談ください。お話を聴きながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 高居・原口
TEL 5712・5101
takai@otagaisama.or.jp

ボランティア求む

学習支援ボランティア募集

山崎小学校に通う児童が、授業の板書を理解する手助けを求めています。週1回・2〜3時間から授業に付き添っていただけの方を募集します。児童のペースに合わせて寄り添ってくださる方のご応募をお待ちしております。

●日時／平日週1回・2〜3時間

●場所／山崎小学校（梅丘3・9-1）
●交通／梅ヶ丘駅徒歩10分
●問合せ／梅丘ボランティアビューロー 担当 横井
TEL 3420・2520
urnebora@otagaisama.or.jp

東小 保育園に送ってくださる方を募集

喜多見にお住まいの保育園児（男子）を保育園に送ってくださる方を募集します。保護者はひとり親家庭でご病気があるため送っていくのが難しい状態です。詳しくはお問い合わせください。

●日時／水・木・金で9時〜9時半の間で

●場所／喜多見1丁目から徒歩15

分程度の保育園まで
●条件／女性で子どもとふれあうのが好きな方
●問合せ／砧ボランティアビューロー 準備室 担当 池田
TEL 6411・4007
knutabora@otagaisama.or.jp

Ⓛ 中学2年生の男子中学生の学習支援をしてくれる女性を募集

苦手教科のうち、特に国語の学習支援を自宅でお願いただける方を募集しています。集中することが苦手なので、じっくり気長に教えてくれる人が良いです。電車や歴史（日本の戦国時代）が好きなので、ひと息つく時間には、そんな話もできると嬉しいです。学習支援の活動はお母さんが在宅してします。

世 車いす利用者の通院付き添いボランティア募集

世田谷2丁目にお住まいの70代男性が、通院の帰りに付き添ってくださる方を求めています。2週間に1回、定期的に火曜日の午後3〜5時位、主に世田谷中央病院からの帰りに薬局などに立ち寄り帰宅します。時々、続けて歯科医院や整形外科を受診することもあります。時間は日により前後する為、余裕のある方であれば助かります。また、雨天時にも通院します。男性とお話を楽しみながら協力して下さる方、お問合せお待ちしています。

●日時/月曜18時〜1時間くらい
火・木は応相談

●場所/自宅

●交通/祖師ヶ谷大蔵徒歩11分

●条件/女性

●問合せ/祐ボランティアビュー

ロ 準備室 担当 久我

TEL 6411-4007

kinutabora@otagaisama.or.jp

●日時/2週間に1回、火曜日の15時〜17時（前後あり）

●場所/世田谷・上町近辺

●交通/世田谷駅・上町駅

●条件/男女問わず、車いすを押す体力のある健康な方。1回につき2000円の手当あり（区

の緊急介護人へ登録していただきます）

●問合せ/梅丘ボランティアビュー

ロ 1 担当 石川

TEL 3420-2520

umebora@otagaisama.or.jp

東 後楽園駅からの下校に付き添ってくださる方

世田谷区内在住の知的障害のある女の子が、後楽園駅近くの学校から自宅最寄り駅（田園都市線の駅）までの下校に付き添ってくださる方を必要としています。現在、複数のボランティアさんとご家族で交代で付き添っていますが、あと何名か手伝ってくださる方がいると助かります。

女の子は、高校2年生で大人しい性格です。電車での移動には慣れており、乗り換える駅や路線などは理解しているので、基本的に

彼女が移動するのを側で見守っていただく。詳しくはお問合せください。

●日時/毎週金曜日、17時に学校前にお迎え。18時ごろ自宅最寄り駅着

●場所/後楽園駅近くの学校と自宅最寄り駅の間

●条件/女性、交通費支給

●問合せ/玉川ボランティアビュー

ロ 1

TEL 3707-3528

tamabora@otagaisama.or.jp

有償スタッフ募集

東 身体の不自由な中学生の勉強のサポートをして下さる方募集

給田在住の中学1年生の女の子の勉強をサポートして下さる方を募集します。女の子は、神経難病のため身体が不自由で、人工呼吸器を使用して生活しています。主にタブレットを操作しながら勉強していますが、タブレットの操作のサポートや、問題を解いた後の丸付けをお願いします。教科は、5科目（国語、数学、英語、理科、社会）の内その都度、どれかをお願いします。詳細

しくはお問い合わせください。

●日時/日曜日13時〜17時の間で2時間程度（夏休みなどの期間は週2〜3回希望）

●場所/給田にあるご自宅

●交通/仙川駅徒歩20分

●条件/2000円/回、タブレット操作に慣れている方

●問合せ/祐ボランティアビュー

ロ 1 準備室 担当 久我

TEL 6411-4007

kinutabora@otagaisama.or.jp

小 失語症会話パートナー養成講座説明会

失語症会話パートナーとは、失語症についての正しい知識と会話技術をもち、失語症のある人のコミュニケーションを補いながら会話ができる人のことです。失語症のある方々へのサポーターになりませんが、説明会にて行います。まずは説明会にぜひお越し下さい。

●日時／8月17日（水）15時～16時半

●場所／世田谷区立保健医療福祉

●場所／世田谷区立保健医療福祉

●日時／8月27日（土）14時～17時

●場所／らくらくハウス（世田谷区玉川1-8-2）

●交通／二子玉川駅徒歩2分

●参加費／1000円

●申込み／氏名・年齢・住所を明記してメールで申し込む

●問合せ／東京ヒューマンライブラリー協会 担当 亀澤

●問合せ／玉川ボランティアビュロー

●問合せ／世田谷在任、在勤で発達障害のある方、自分は発達障害かとも思っている方

●申込み／当日午前中までに、玉川ボランティアビュローまでメールをください。ZOOMのリンクをお送りします。件名に「あたりば参加希望」と明記して下さい。

●問合せ／玉川ボランティアビュロー

●問合せ／世田谷在任、在勤で発達障害のある方、自分は発達障害かとも思っている方

●申込み／当日午前中までに、玉川ボランティアビュローまでメールをください。ZOOMのリンクをお送りします。件名に「あたりば参加希望」と明記して下さい。

総合チラシ

●交通／梅ヶ丘駅下車徒歩5分

●条件／対象者は区内在住で、講習5回（9月15日、10月20日、11月17日、12月15日、1月19日13時半から16時）の全日程に参加でき、修了後にボランティア活動ができる方

●問合せ／世田谷区保健センター 専門相談課 担当 安保・小金丸

TEL 6265・7546

NPO・市民活動相談

世田谷ボランティア協会では、ボランティアグループ・任意団体の立ち上げや運営に関する相談や、NPO法人の設立も含めたNPO・市民活動に関する基礎的な個別相談にも応じています。

グループの運営に悩んでいる、助成金情報を知りたい、NPOって何？ など、いろいろなご相談を受けています。すでに活動している方も、これから何か始めたい方も、個人・団体問わず相談可能です。まずはお電話でお問合せください。（相談無料、事前予約制）

●問合せ／世田谷ボランティアセンター

TEL 5712・5101

大人の発達障害オンラインカフェ『あたりば』

「発達障害あります」「グレーゾーンかも」という方がオンラインで集っておしゃべりカフェ『あたりば』で、他の参加者やボランティアスタッフと一緒に話してみませんか。何かについて話したい、なんとなく話したい、人の話を聞いてみたい、ちょっとのぞいてみようなど、どんなスタンスで参加しても大丈夫。気軽にのぞいてください。途中退席も大丈夫です。

●日時／毎月第3金曜日14時～15時半

●場所／ZOOM（オンライン）

●参加費／無料

●条件／世田谷在任、在勤で発達障害のある方、自分は発達障害かとも思っている方

●申込み／当日午前中までに、玉川ボランティアビュローまでメールをください。ZOOMのリンクをお送りします。件名に「あたりば参加希望」と明記して下さい。

●問合せ／玉川ボランティアビュロー

TEL 3707・3528

TEL 3707・3528

TEL 3707・3528

京 傾聴ボランティア講座（全5回）@粕谷区民センター

この傾聴ボランティア講座は個人の方と対面で継続的に行う傾聴ボランティア活動のための講座です。話すこと、聴くことを体験学習を通して、グループで考え、感じながら学んでいきます。あなたも、傾聴ボランティア活動への一歩を踏み出してみませんか？

●9月1日（木）10時から電話受付
●日時/各日火曜日 13時～16時
9月20日「出会う」
9月27日「ふれあう、言葉/態度」
10月4日「気持ちを知る」
10月18日「価値観の違い」

Aーシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAーシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）で結び付け、ボランティア活動を支援します。



詳細は左記QRコードからご覧ください。

せたがやチャイルドライン寄付・ご支援のお願い

① 寄付・ご支援のお願い

せたがやチャイルドラインは、18歳までの子どものための電話です。電話を受けるのは研修を受けたボランティアです。バザーや手づくり品の販売などで活動資金の一部を調達していますが、イベントの中止などにより、活動資金を確保することが難しくなっています。子どもをささえる活動を支援するため、ご寄付の協力をお願いいたします。

- 郵便振替口座にお願いします。
- 口座番号/00150・8・2799963

- 加入者名/社会福祉法人世田谷ボランティア協会

※この口座への寄付は所得税の寄付金控除の対象にはなりません。通信欄に「寄付申込書せたがやチャイルドライン」とご記入ください。

② 講義集の販売

受け手講座の内容をまとめた講義集『子どもに育ててもらったおとなたち』をメールでご注文いただけます。この講義集は受け手養成講座のテキストでもあり、せたがやチャイルドラインが大切にしている「子どもへのまなざし」がぎゅっと一冊にまとめられています。受け手講座に関心のある方や、子どもとのかかわりに悩む大人の方にもぜひ読んでいただきたい内容となっています。

- 価格/1冊1000円（税込）。支払いは後日お振込みとなります。（別途送料）
- 注文方法/郵送ご希望の方は、「名前・送付先住所・電話番号・冊数」をご記入のうえ、メールでお申し込みください。

● 問合せ/せたがやチャイルドライン
TEL 5712・5101
childline@otagaissama.or.jp

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にすところ「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った！」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぼーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるね！ 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ！

◆センター&ビューローより

9月から傾聴ボランティア講座(全5回)を粕谷区民センターで開催します。烏山地域では初めての開催となりますので、お近くの方、ぜひご参加ください。詳細はP.11をご覧ください。

◆ふらっと& withより

8月になり夏もいよいよ本番。早い梅雨明けからすでに真夏日を体験した今年は、毎日気を張って過ごすことばかりです。身近の変化に心を寄せて楽しみを見つけながら過ごしたいと思います。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます！世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です！

◆チャイルドラインより

世田谷の子どもたちに、チャイルドラインカードを届けました。夏休みの間に「誰かと話したい・聞いてもらいたい」ことがあったら、チャイルドラインに電話やチャットをしてみてください。

編集後記

■今回の特集記事を編集していた時に、私が小さかった頃(30年ほど前)を思い出しました。友だちと一緒に、公園の砂場で山を作ってそこにトンネルを掘ったりしました。トンネルが崩れないようにするにはどうすればいいのか、友だちと試行錯誤して作りました。その時、大人たちはじっと見守ってくれていたなど懐かしい気持ちになりました。あの頃のように、無邪気に泥んこになって遊んでみたいなと思いました。(近藤)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

